

No.163

# さい議会だより



小学 1・2 年生が熱演！（佐井小学校学習発表会 劇「こぶとりじいさん」）

9  
月  
定  
例  
会

平成 24 年度決算を認定 … 2, 3 ページ

増える孤独死対策を … 8 ページ

「わかめ養殖」漁業活性化期待 … 10 ページ

# 平成24年度決算 総額35億円を認定

## 平成24年度各会計の決算

会計	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	基金繰入額
一般	24億7375万円	24億2423万円	4952万円	2388万円
特別会計	簡易水道	7270万円	7270万円	0円
	下水道	1億7902万円	1億7902万円	0円
	国民健康保険	4億8300万円	4億6677万円	1623万円
	介護保険	2億9255万円	2億8071万円	1184万円
	後期高齢者医療	2242万円	2207万円	35万円
合計	35億2344万円	34億4550万円	7794万円	
平成23年度決算	38億7665万円	37億9656万円	8009万円	

平成二十五年第三回定例会は、九月六日から十一日までの六日間の会期で行われました。村長から、報告二件、決算認定六件、補正予算案六件、人事案一件、その他二件の計十七件、議員から議会委員会条例の一部改正案など二件が提出され、それぞれ全会一致で原案どおり決しました。

## 平成24年度 決算審査報告

### 収納事務の強化を図り収納率向上を

歳入においては、財政の基本をなす村税収入について、収入未済額は多額であることから、長引く不況や基幹産業である漁業の不振を考慮すると、今後さらに悪化することが考えられる。このため収納事務をさらに充実・強化し財政の健全化税の公平性を期すため、未納者に対する納付督促、差し押さえ等の処分を強化し、さらなる収納率の向上にお一層努力されたい。また、お一層努力されたい。また、奨学資金の滞納も依然として高い水準にあることから、収納体制の強化を図ると共に奨学生、保証人等の意識改革を促す等、未納の解決に努めていただきたい。一方、歳出においては、

最後に、平成二十四年度決算に係る健全化判断比率等について報告いたします。決算に係る健全化判断比率等について報告いたします。実質赤字比率等については赤字が存在せず、実質公債比率等も早期健全化基準を下回り、また昨年度と比較しても比率が減少しておらず。今後もなお一層財政健全化に向けた諸般の取り組みをしていただくようお願い申し上げます。決算審査報告といった



決算審査報告をする奥本代表監査委員

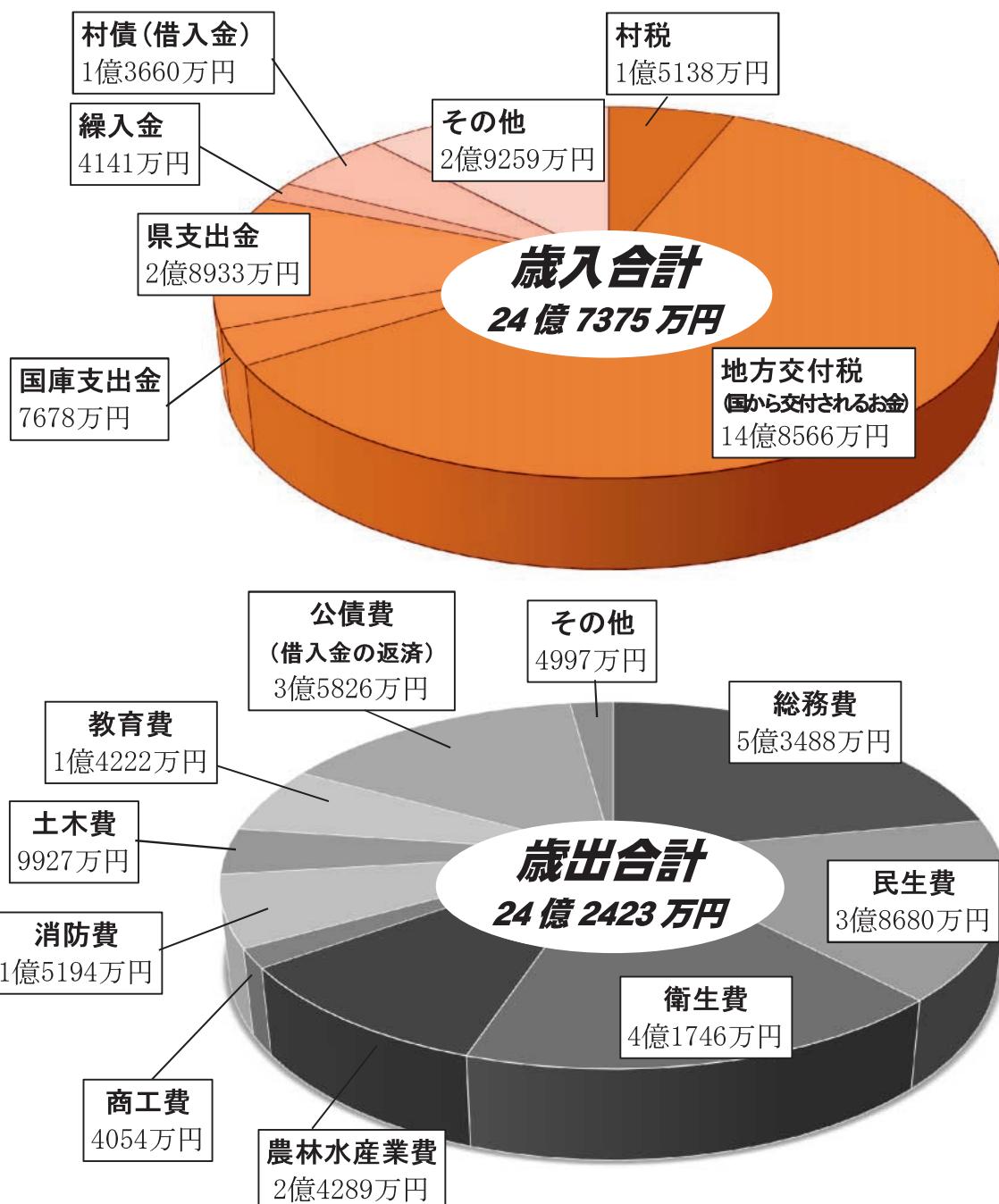
## 平成 24年度一般会計(歳出総額)

# 24億2423万円

決算規模は、歳入 24 億 7375 万円（前年度 29 億 467 万円）、歳出 24 億 2423 万円（前年度 28 億 3777 万円）となりました。

増減率は、歳入 14.8% 減（前年度 3.9% 減）、歳出 14.6% 減（前年度 4.0% 減）となり、歳入歳出ともに前年度を下回る決算となりました。

歳入（財源）	24億7375万円
歳出（使い道）	24億2423万円
歳入歳出差引額	4952万円
翌年度へ繰り越すべき財源	176万円
実質収支	4776万円



## 各会計補正予算案を可決

# 総額2756万円を追加補正

### 補正予算の内容

会 計	補 正 前	補 正 額	計
一般会計	23億9167万8千円	2005万3千円	24億1173万1千円
	シティライン(株)欠損補助金 下北医療センター支出金	1702万5千円 541万9千円	ほか
特別会計	簡易水道	7429万8千円	△2万1千円 7427万7千円
	下水道	1億8306万8千円	△3万4千円 1億8303万4千円
	国民健康保険	4億5328万1千円	645万6千円 4億5973万7千円
	介護保険	2億9689万9千円	75万7千円 2億9765万6千円
	後期高齢者医療	2377万1千円	35万2千円 2412万3千円

※職員給与削減措置については、東日本大震災を契機として防災・減災事業に積極的に取り組むと共に地域経済の活性化を図るため、国家公務員の給与の減額措置に準じて平成二十五年七月一日から平成二十六年三月三十一日までの期間減額するもの。

○平成二十五年度佐井村一般会計補正予算(第二号)  
職員給与削減措置に伴う人件費の調整の他、土木費では橋梁長寿命化改修事業費の確定により八百八十万二千円を減額。

### 審議した主な議案

○佐井村議会会議規則の一部改正  
提案理由  
地方自治法の一部改正に伴い改正するほか、条文整理のため改正するもの。

○佐井村議会委員会条例の一部改正

### 議員提出議案

○職員等の旅費に関する条例  
燃油価格の変動が著しく、車賃の額に不都合を生じることから、条文を整備する。

○佐井村過疎地域自立促進計画の変更  
中山間地域総合整備事業について、農業用排水施設や、農道整備を進めるための計画内容に変更が生じたことから、議会の議決を得る。

## 命をつなぐきめ細かなネットワーク必要

# 一人暮らしの見守り早期対策を

**竹内 修委員**

佐井村第四次長期総合計画の見直し等については、三月末の検証委員会の提言を受けてどのように見直し改善していくのか。

**村長**

今回五項目について提言を受け、その中で地域担当職員制度のあり方や共通商品券発行事業に対するの村からの指導促進について、また患者送迎バス事業に対する提言があつた。

**提言五項目**

### ○佐井村第4次長期総合計画前期実施計画（第2期検証）について

#### 1. 基本政策Ⅰ わかりやすい行政と住民参加のむらづくり

地域担当職員制度について、制度導入後3ヶ年を経過しようとしているが、機能していないように見受けられるので、効果的な対応策を講じていただきたい。

#### 2. 基本政策Ⅱ 子どもとお年寄りが安全で安心して暮らせる温かいむらづくり

無医村対策として、患者送迎バス運行事業やへき地診療運営事業を継続していただきたい。

#### 3. 基本政策Ⅲ 豊かな地域資源を生かし自然と共存した産業のむらづくり

売れる野菜生産等を行い、意欲のある農業者を支援する仕組みづくりを検討して欲しい。また、共通商品券発行事業については、より効果的な指導をお願いしたい。

#### 4. 基本政策Ⅳ 伝統文化を守り、子どもが夢と希望を持てるむらづくり

引き続き事業の着実な進展等を図っていただきたい。

#### 5. 基本政策Ⅴ 重点戦略プロジェクト

特産品開発、ゆるキャラ導入事業など、引き続き着実な進展を図っていただきたい。また、北前船彩紀行事業の成功を期待する。更に地域おこし協力隊と連携した事業の進展を図るために、住民参加の事業を開拓していただきたい。

**竹内 修委員**

この提言を村民のために役立つよう各担当課に周知してもらいたいと思う。

また、提言の中の地域担

当職員制度については、私は良い制度だと思っている

が、出だしからトップダウ

ンでやつたことで職員との

歯車が合わなかつた部分が

あつたような気がする。

事前に職員と協議をし、職員が納得できるような制

度にしてもらいたいし、公

務でこの制度を続けること

は大変な事と思っている。

その中で一人暮らしの見

守りについても、見守りシ

ステムがうまく利用でき

ていない状況だからもう一度

村民と各協力団体等、そし

て役場職員とで命をつなぐ

きめ細かなネットワークを

作っていくのがベストでは

**一人暮らしの見守り重要**

**これから協議していく**

**村長**

地域担当職員制度を活用しての見守りについては、今後住民福祉課と総務課で十分詰めながら、定期的に予定表など組んで、公務という立場で各協力団体等の後方支援をして地域全体の見守りをしていきたい。

**スピード感必要**

**竹内 修委員**

県社協との福祉安心電話の加入についても、まだ取り組んでいないようなので、もうひとスピード感をもつて取り組んでほしい。

## 胃がんの原因になる「ピロリ菌」

# 新たな検診の考え方あるか

**川畠委員**

子宮けいがんワクチンの  
予防接種に関して、接種後の  
副反応により、学校生活

に支障が出ていくとの報道  
がされている。

村ではそのような報告は  
受けているか。また、今後  
の村の対応は。

副反応報告事例な  
し

検討する

ピロリ菌検査につ  
いての考えは

**川畠委員**

胃がんの原因の一つであ  
るピロリ菌について、村で  
は各種がん検診で胃がん検  
診を行っているが、ピロリ  
菌の検査についてはどのように  
考えているか。

**村長**

がんにならないようお手  
伝いするのが、我々行政の  
職務だと思っていい。若干  
の時間をおいて、前向き  
に検討したい。

若干の時間必要

**参事・住民福祉課長**

当村では、平成二十三年  
度から予防接種を実施し、

これまで八十三人が接種し  
ているが、副反応があつた  
接種にあたつては保健師  
を通じ保護者へ有効性とリ  
スクについてきちんと説明  
していきたい。

**参事・住民福祉課長**

北海道夕張市はピロリ菌  
の除菌を積極的に呼びかけ、  
胃がんによる死亡率を大幅  
に減らしたという報告がさ  
れている。

村では今後、他町村の事  
例等も把握しながら検討し  
たい。



各地区で行われる村の複合検診（集団健診）

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）…

食べ物や飲み水から感染する経口感染がほとんどで、多くが幼少時に感染すると考えられている。日本人の70%前後が感染していると言われている。

感染すると必ず胃潰瘍や十二指腸潰瘍になるわけではないが原因になることは確実で、胃がんの発生にも深く関わっており、ピロリ菌の除菌は胃がんの予防にも繋がると期待されている。

# ポーラスターの活用促進へ 防災航路への積極的な活動を

坂井委員

若干の利用がある

シライインの欠損金が計上されている。就航五年に満たないのに様々な問題を抱え、先行き不透明に思う。なかでも、国の補助金が今まで五割と認識していたが、今は六割以上という事で、基準があいまいだと思うが、きちんと出来ないものか。

村長

序議等でも話はしている。

若干、職員の利用があるが、会議の時間が合わないなど、色々不便があるようで期待どおりにはいっていない。

査定官により  
左右される

村長

査定官の査定によつても、左右されることを理解していただきたい。

役場職員、  
村民の活用状況は

坂井委員

査定官によつて変わるもの、いかがかと思う。また、昨年の十二月定例会で、ポーラスターを役場職員、村民ともに活用するという決意を述べられたが、その後活用されているのか。

更に検討したのか

坂井委員

問題点は前々から分かっていることで、更に検討したのかを伺つてゐる。

役場内で意思統一

村長

序議の中で話し、意思統一したと思つてゐる。

実際の利用人数は

坂井委員

査定官によつて変わるもの、いかがかと思う。

実際の利用人数は

坂井委員

査定官によつて変わるもの、いかがかと思う。

十名以下と思つてゐる。

参事・総務課長  
十名以下

必要性指導

村長

離島航路の存続の必要性を話し、指導もしている。

状況を打破する方法を相談したか

坂井委員

状況は難しいと思うが、それに変わらるような方法を考え、行つたのか。無理なら無理と言つた方がいいのでは。

イベントや特産品の販売を行う

坂井委員

今後、うにまつりなどの

振り回されず  
積極的に行動を

坂井委員

離島航路として村も応分

活用するようにと平成二十  
三年度の予算編成の基本方針にうたつてゐるのに、二十四年度は断念したという

ことか。実際にどのくらいの職員が利用したのか。

また、離島航路の意義があるので、職員の利用をきちんとさせていきたい。

イベントや特産品の販売を通じて、青森佐井間の乗客を少しでも増やしていくたい。

の補助をしなければならない。振り回されるばかりではなく、積極的に進めて欲しい。

防災航路としての活用の進展状況は

坂井委員

生活航路としてほとんど利用されていないのが現状。

結果として離島航路としての意義があるのか疑問だ。強い思いがあるのならもっと成果があるよう指導して欲しい。

また、防災航路としての活用の進展状況はどうなつてゐるのか。

機会あるごとに県にお願いしている

村長

機会あるごとに県に認定をお願いしている。





川岸一彦議員

# 3人に1人以上が高齢者

**村長** — 保健師・地域担当職員等訪問による見守り体制をつくる

**川岸議員**  
一人暮らしの孤独死を防ぐ手立てを行政として考えているのか伺いたい。まず佐井村の高齢化率と、一人暮らしの数は。

また、県内四十市町村のうち、佐井村の高齢化率は何番目に位置しているか。

**三人に一人以上が高齢者**

**川岸議員**  
を超える限界集落と言われる地区も存在する。

**見守りシステムの現状は**

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生している。

**加入率が少ないのでは**

**川岸議員**  
地域の実情に応じた体制作りが必要のため、保健師による訪問活動の充実を図り、併せて地域担当職員が

**川岸議員**  
公務の一部として定期的に一人暮らしの高齢者宅を訪問し見守り体制をつくる。

**川岸議員**  
の考え方。

さい議会だより 163号 ⑧

**利用者三十名**

**川岸議員**  
対象範囲は

**川岸議員**  
職員が率先して行動するべき

**川岸議員**  
モデル的

さい議会だより 163号 ⑧

**村長**  
当村の六十五歳以上の高齢者人口は、本年の七月末で八百六十四人、総人口二千三百八十三人に占める割合は、三十六・二五%と県内四十市町村の中で六番目に高い率となっている。また、三人に一人以上が高齢者という、超高齢社会を迎えている。

**川岸議員**  
高齢者一人暮らしの方の安全確認のため、見守りシステムの現状は。

**川岸議員**  
先日、見守りシステムについて社協へ伺った。朝七時から十五時まで対応し、一人暮らしの方がボタンを押せば社協で安否が確認できることに。確認が取れない場合は、その方をサポートする人へ連絡して確認してもらうシステムになっている。

**川岸議員**  
一人暮らしに関わらず、高齢者世帯や、障害者も対象とするのか。

**川岸議員**  
職員自ら仕事の一環として深く高齢者の方々の要望に耳を傾けることにより、職員の気持ちも醸成できればと考えている。

**川岸議員**  
新聞配達業者、生協、ヤクルト販売、水道・電気等検針員、宅配業者等と協定を締結したい。

さい議会だより 163号 ⑧

**村長**  
当村の六十五歳以上の高齢者人口は、本年の七月末で八百六十四人、総人口二千三百八十三人に占める割合は、三十六・二五%と県内四十市町村の中で六番目に高い率となっている。また、三人に一人以上が高齢者という、超高齢社会を迎えている。

**川岸議員**  
私は常に胸を痛めているが、一人暮らしの高齢者の方が誰にも看取られることなく

**川岸議員**  
このような状況の中で、亡くなる孤独死が平成二十二年度は一名、平成二十三年度は三名、平成二十五年

**川岸議員**  
高齢者二人暮らしや一人暮らしの障害者の方も含め職員が訪問する。

**川岸議員**  
また、本年二月に開催した佐井村見守りネットワークシステム連合会及び、見守りネットワーク研究会で提案された、協力事業者による高齢者見守り事業について、今年度中の実施に向け取り組んでいきたい。

**川岸議員**  
今後、ますます高齢化が進む中で、地域担当職員や保健師の見守り体制が確立されば、モデル的な事例になるので、実現に向けて進んでほしい。

さい議会だより 163号 ⑧

**村長**  
百四十名おり、六十五歳以上

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生して

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生して

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生して

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生して

**川岸議員**  
度はもう既に二名発生して

さい議会だより 163号 ⑧

9月定例会

北前船彩紀行事業、次の政策展開

# 「能登屋家」を保存活用しては

村長 SAIツーリズムまち歩きコースに組み込む

村長 今回の「みちのく丸」寄港を機に江戸時代の佐井村の繁栄に係る数多くの資源・財産があることが明るみとなり、歴史、文化、そして民力が村民に周知され、村外に対しても十分発信することができた。次の施策展開として、関係者の理解と協力を得ながら、建築物の整備、貴重な文化資料などを展示するスペースなどを考えたい。

**建物の整備等次の打つ手を考えたい**



「みちのく丸」寄港によりたくさんの人で賑わった佐井港

川岸議員

七月二十一日から二十三日までの三日間にわたり行われた、北前船彩紀行「北の夢海道・佐井湊事業」に、村内外から五千人近い方が、佐井港に足を運んでいた。ることは、十分に事業の主旨目的が達成されたと思

う。この事業を一過性のイベントとして終わるのか、次の政策展開を見据えているのか。

この事業を、能登屋家に関係資料を展示し、「まち歩きコース」等に組み入れてはどうか。

**能登屋家を保存活用してはどうか**

川岸議員

佐井村の代表的回船問屋

のうち、ほぼ当時の建物のまま現存する能登屋家の保存、活用について検討し、能登屋家に関係資料を展示し、「まち歩きコース」等に組み入れてはどうか。

**まち歩きコースの中に組み込む**

村長

十分検討する意義もあるし、今後の佐井村の観光の一役を担えるスポットになる可能性を秘めており、まち歩きコースの中に組み込みたい考えはある。仮に能登屋家を保存活用することとなつた場合、財政的裏付けについても、今後の実現に向け検討し進めていきたい。

## 議会傍聴アンケートの結果について

議会では、9月定例会の一般質問・追跡質問を傍聴した方にアンケート調査を実施しました。

●アンケート実施日 9月6日(金)		回収率	94.7% (19人中 18人が回答)		
○傍聴経験	今回初めて	6人	○認知方法 (複数回答)	村内放送	8人
	何回か傍聴	12人		サイボード	5人
	毎回傍聴	0人		その他	8人 (議会だより、町内会から)
○議員の質問	よく理解できた	3人	○村長の答弁	よく理解できた	4人
	理解できた	15人		理解できた	11人
	あまり理解できなかつた	0人		あまり理解できなかつた	3人
○議会活動	とても関心がある	3人	○今後の傍聴	ぜひ傍聴したい	2人
	関心がある	14人		傍聴したい	16人
	あまり関心がない	1人		傍聴したくない	0人

※みなさんの貴重なご意見は今後の議会活動に参考にし、よりよい議会運営を目指し活動していきます。

# 漁業者育成へ行政が後押しを わかめ養殖今がチャンス

**竹内 修議員**

六月定例会の総括審査でわかめ養殖について質問した。

その後、漁業者の方に聞

き取りしたが、資金面や漁協の説明不足と感じた。更に、単価面や支援体制がしつかりするのであれば、やりたい漁業者はまだまだあると感じた。そこで、国・県の補助事業に該当しないか探してみたところ、何口かの補助メニューがあつたが、事業費が少なくて一事業を開けるようなものではなかつた。村として、わかめ養殖に取り組める良い補助事業はないか。

**水産振興基金「果実運用」部分の利用**

**村 長**

私は、漁協が漁業者との意思疎通を図らないと、わかめ養殖事業は進まないと考えている。

また、補助金的なものは水産振興基金の※果実運用部分を利用して、わかめ養殖を行つてもらいたいと思つてゐる。

過去に養殖を断念した経緯は

**竹内 修議員**

佐井村でも、以前わかめ養殖を大々的に行つたが、なぜ途中でやめたのか。

**種苗の生育不足等**  
**原因**

**村 長**

昭和六十二年に村からの補助金で、漁協が主体で行つた経緯があつたが、種苗の生育が悪く、更には養殖場の選定、養殖施設の流出、低価格などが原因でやめたのではないかと思っている。

**漁協と組合員が考え方取り組む時期**

**村 長**

今回のこのわかめ養殖を提案した業者は、「千トン単位で買い入れしてもよい」という話もあり、供給先がきちんとしていれば、低価格でも水揚げ量でカバーできるのではないかと思つてゐる。

**行政の後押し必要**

**竹内 修議員**

新聞誌上で、他の漁協も佐井村と同じく十二月から三月まで漁獲が少ない時期にわかめ養殖を行つたところ、大変に良い収入源になつてゐると報じてゐる。普通であれば買い手市場がなく困るが、今回のようにいい手市場があるのに、なぜ漁協が前へ進んでくれない

のか、疑問に思つてゐる。

決めるのは漁協と漁業者だが、村からもう少し説明を促すようアドバイスできないものか。また、あと十数年もすれば、漁協の經營者も世代交代をしなければならない時期が来るため、漁業後継者に対して、つくり育てる漁業についての道しるべを、行政として悔いの残らないよう後押しをするべきと考える。



わかめオーナー収穫体験

※果実運用：運用益となる利息



岡本 良夫さん  
(大佐井)

教育委員会委員（委員長）  
**岡本 良夫氏の再任に同意**  
教育委員会委委員（委員長）岡本良夫氏の任期が平成二十五年十月二十七日で満了するため、引き続き同氏を教育委員会委員に任命することに、全会一致で同意しました。

## 9月定例会 陳情書の審査結果

件 名	陳 情 者	審査結果	付託委員会
違法な臓器生体移植を禁じることを求める陳情書	井田 敏美	資料配布	総務産業常任委員会
母（朱春菊）が中国で不法に逮捕されている件に関する要望	西村 麗子	資料配布	総務産業常任委員会
「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情について	全国森林環境税創設促進議員連盟	採 択	総務産業常任委員会
道州制導入に反対する意見書について	全国町村議會議長会	採 択	総務産業常任委員会

### ～議会を傍聴しませんか～

9月6日(金)午後6時から行われた夜間議会(追跡質問・一般質問)を19名のみなさんに傍聴していただきました。

第4回議会定例会は12月上旬開会予定です。

みなさんの議会傍聴をお待ちしています。

詳しくはサイボードでお知らせします。



## 佐々木副知事へ要望書を提出

8月2日青森県庁

青森県庁において、大間原子力発電所に係るオフサイトセンター設置について、佐井村内全域が大間原発の※UPZ圏内となるほか、国道338号をはじめ県道、海路など陸、海の参集経路の確保が可能であり、また地形や地質構造、風況等優位的条件を考慮し、当村に整備して欲しいと佐々木副知事へ要望しました。

副知事は、国及び大間町のほか佐井村を含めた関係市町村の意見等を伺いながら、適切に対応・検討したいと答えていました。

※国際原子力機関（IAEA）の国際基準をもとに「原子力施設からおおむね30キロ」



## 西目屋村を視察 8月3日西目屋村

佐井村と地域連携協定を結んでいる西目屋村は、県内一人の少ない村で当村と同じく少子・高齢化の問題を抱えていますが、白神山地自然遺産を活用した観光産業により、住民の雇用を図り、村を活性化させ住民の福祉向上を充実させています。

今後の議会活動と村づくりに生かすため、西目屋村定住促進住宅や、県下最大規模の津軽ダムの建設による経済効果などを視察しました。



県下最大規模の「津軽ダム」

## 岩泉町議会広報を視察

9月26日岩手県岩泉町

岩泉町は、町村議会広報全国コンクールで最優秀賞2回、優秀賞5回、奨励賞4回受賞するなど、議会広報では全国的にも有名な町議会です。

岩泉町議会広報編集委員の方から、「住民にわかりやすく、読みやすい、親しまれる紙面づくり」の取り組みを教えていただきました。

今回の視察を参考に、より一層村民と議会をつなぐパイプ役となる、「さい議会だより」を目指します。



岩泉町役場にて

## 田野畠村の復興状況を視察

9月27日岩手県田野畠村

田野畠村には、東日本大震災の復興支援のため、全国各地の自治体から7名の職員が派遣され、当村からも平成24年度から職員1名を派遣しています。

震災による津波被害により、今なお仮設住宅で不便な生活を余儀なくされている方のために、住宅の高台移転工事が急ピッチで進められている現場や、漁港の復旧状況などを視察し、今後更に危機感を持って、災害に強い村づくりに努めなければと強く感じました。



今年9月から運営再開したサケふ化場「明戸地区」